

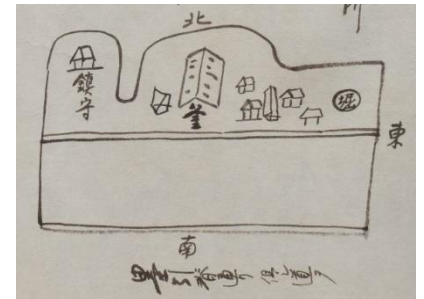
奈良市文化財講座「奈良の文化財をもっと知る講座 2017」

第5回「赤膚焼登り窯の保存と活用～修理の軌跡と釉薬づくり体験～」

赤膚山元窯の特徴・価値

①江戸中期の赤膚焼再興以来の由緒を伝える

- ・現在の赤膚焼は、江戸中期に郡山城主・柳沢堯山が、京都から陶工・治兵衛を招いて再興
- ・この治兵衛の窯を継承するのが古瀬窯



赤膚焼墨引図

「為取替一礼之事」付図

②3つの登り窯が並んで残る

- ・3つの登り窯が並んで残るのは全国的にも珍しい
- ・登り窯小型化の歴史的移り変わりをよく示す



3つの登り窯が並ぶようす

③地産地消の焼物生産

- ・付近産出の粘土を裏山で保管、敷地内の水簸場で精製、釉薬も自家調整、広場や工房などを含め、原料から製品までの一連の工程を行える場を今も確保
- ・江戸時代から続くこのような生産体制を保持している窯元は全国的にも珍しい
- ・窯道具、土型、ろくろ等、多くの道具も現存



五條山窯圖（昭和8年）

④古代以来の焼物生産の伝統を伝える

- ・古墳時代の土師氏によるはにわづくりや、中世の西の京における土器・瓦づくり等、当地周辺において古代以来連綿と続けられてきた焼物生産の伝統を伝える



菅原はにわ窯公園

市指定文化財のはにわ窯が残る